



“発見”の新境地へ

一元的なワークプレイス検索の導入は必要？

チームがオンラインの職場やクラウドベースのツールといった“新しい日常”にうまく適応している一方で、“社内コンテンツの見つけやすさ”は多くのIT部門の最優先課題となっています。パーソナライズされた単体の検索エクスペリエンスで生産性ツールやコラボレーションツールを串刺し検索できれば、チームの垣根を越えて増殖するコンテンツも簡単に把握できます。

このセルフチェックリストは、組織に一元的なワークプレイス検索ツールを導入することで社内の情報が見つけやすくなり、メリットが生じるかどうかの評価に役立ちます。

McKinsey & Companyの調査報告によると、社員は1日平均で1.8時間、週に約9時間を情報の検索に費やしています。

コンテンツソース

次のアプリのうち3つ以上を組織全体で使用していますか？

Box	Google Drive	SharePoint
Confluence	Jira	Slack
Dropbox	OneDrive	Zendesk
GitHub	Salesforce	自社開発アプリ
Gmail	ServiceNow	レガシーアプリ

チームによって優先するコンテンツソースが異なりますか？

社員

会議や業務に必要なコンテンツや情報が見つげにくいことについて、組織で働くメンバーから不満の声があがっていますか？

チームとして、オンラインで働く機会が増えていますか？オフィスへ出勤する社員とリモートワークの社員で就業する時間帯が異なり、同僚と対面して協働したり、質問をしたりする機会が減っていますか？

組織として従業員エンゲージメントまたは従業員努力スコアを測定していますか？また、社員が求める情報へのスムーズなアクセスが、従業員満足度を高める推進力になりますか？

それぞれのチームで使用するツールが異なることが、情報のシームレスな共有を妨げる課題の一因ですか？

マカフィー社が2019年に実施した調査では、平均的な企業が76種のファイル共有クラウドサービスを使用しており、また平均的な社員が業務で36種類のクラウドサービスを活発に利用していることが明らかになりました。

組織

組織内に、相互の情報共有を必要とする複数の異なる部門、または特定の国での事業、分散型の複数のリモートワークチームなどがありますか？

チームから、1つの場所に必要な情報をまとめて欲しいというリクエストが出ていますか？

チーム内に、意思決定や顧客満足の目的で、絶対に正確な情報を求めるメンバーが存在しますか？

事業が成長軌道に乗っていて、新規採用の社員の割合が増えていますか？

プロジェクトリソース

社内でベータリリースするワークプレイス検索プロジェクトへの参加や、フィードバックの共有に意欲的なチームメンバーはいますか？

業務時間の一部を割り当ててワークプレイス検索ソリューションへの挑戦や立ち上げ、設定に協力できる技術系人材が1名か2名いますか？

社内で新規ツールの導入状況や使用状況をオブザーブ、および測定する必要がありますか？

数年ではなく、数週間で社内向け検索機能の立ち上げと稼働を開始したいと考えていますか？

5つ以上の質問にあてはまる場合、一元的なワークプレイス検索が組織における従業員満足度や意思決定、生産性に有意な改善をもたらす可能性が高いと言えます。

Elastic Workplace Searchで一元的な社内検索の構築を成功させる方法を詳しくご覧ください

さらにリソースを見る

ベストプラクティスを確認する